



ぼうさいこくたい2023

第5回現地情報共有・連携会議結果概要



日時 令和5年11月27日（月）18時～20時

開催方法 神奈川県危機管理センター又はZoomによるオンラインの選択

参加者 総数 46名（災害対策本部室：18名 Zoom：28名）

【会議内容】

1 挨拶

- ・神奈川県 長澤くらし安全防災局企画調整担当課長
- ・内閣府 西澤企画官

2 結果報告概要(内閣府)

3 アンケート結果発表

4 希望団体からの報告



発表団体（オンライン）

- ①ご近所 de BOSAI様
- ②横浜市立大学様
- ③公益社団法人SL災害ボランティアネットワーク様
- ④平塚市様
- ⑤人と防災未来センター様
- ⑥神奈川県大規模災害対策土業連絡協議会

発表団体（現地）

- ⑦Os-7様
- ⑧復興ボランティアタスクフォース様
- ⑨横浜国立大学様
- ⑩ユーティリティソリューションズ様
- ⑪NPO法人 神奈川災害ボランティアネットワーク様
- ⑫NPO法人かながわ311ネットワーク
災害復興くらし応援・みんなのネットワークかながわ様



ぼうさいこくたい 2023

記録集



神奈川県くらし安全防災局危機管理防災課



ぼうさいこくたい概要

2023 年
関東大震災
100 年記念行事等

1 ぼうさいこくたい概要

- 防災に関する多様な団体・機関が全国から一堂に会し、取組や知見を発信・共有する、国(内閣府)が主催する日本最大級の防災イベント
- 2022大会は、現地約12,000人、オンライン約11,000人が参加し、2023大会も全国から多くの参加が見込まれる



ぼうさいこくたい2023サイト

2 第8回ぼうさいこくたい2023 in 神奈川 大会概要

名 称	防災推進国民大会2023
テーマ	次の100年への備え ～過去に学び、次世代へつなぐ～
主 催	防災推進国民大会2023実行委員会(内閣府・防災推進協議会・防災推進国民会議)
協 力	神奈川県、横浜市、横浜国立大学
日 時	9月17日(日) 10:00～18:00 18日(月・祝) 10:00～15:30
会 場	横浜国立大学(横浜市保土ヶ谷区常盤台79)
対 象	防災に関心のある方、学びたい方 無料
参加数	383団体(県内団体は85団体)



来場者

日付	9/17(日)	9/18(月)
会場全体	約16,000人	
オリジナルセッション	130人	—
県プレゼンテーションブース	224人	131人

県セッション風景



メインストリート風景



県ブース風景





オープニングセッション風景

2023 年
関東大震災
100 年記念行事等

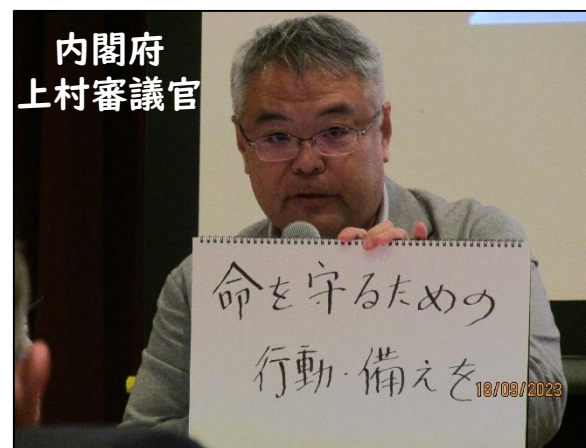
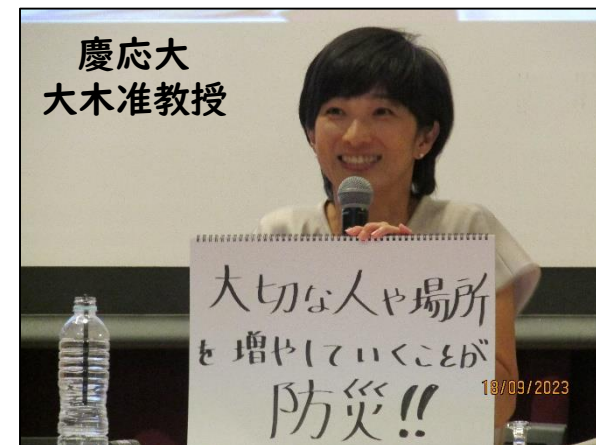
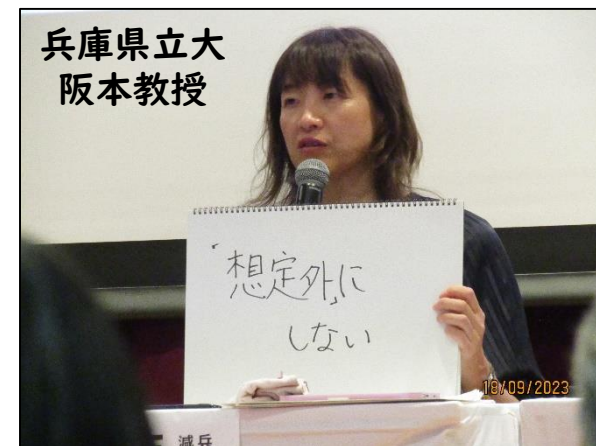




ハイレベルセッション

次の100年に向けて、来るべき巨大地震にどう備えるか

2023年
関東大震災
100年記念行事等





県オリジナルセッション 誰一人取り残さない防災を目指して

2023年
関東大震災
100年記念行事等





県オリジナルセッション

2023 年
関東大震災
100 年記念行事等

鈴江様



知事



戸羽様



加藤様



浅野様



菅野様





内藤様



金子様



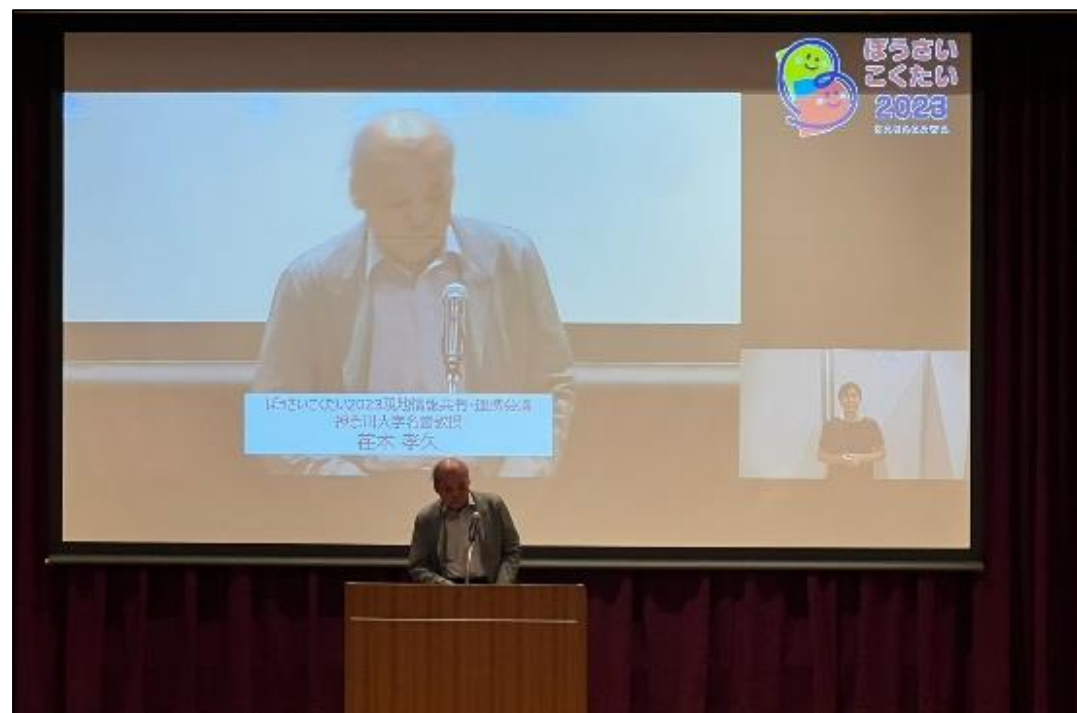
打ち合わせ風景





クロージングセッション

2023 年
関東大震災
100 年記念行事等





その他風景

2023 年
関東大震災
100 年記念行事等



これまでの振り返り 現地情報共有・連携会議



ぼうさいこくたい2023

第1回現地情報共有・連携会議結果概要

日時 令和5年3月23日(木)18時～21時

開催方法 神奈川県災害対策本部室又はZoomによるオンラインの選択

参加者 総数 149名

災害対策本部室 27名

Zoom 122名(パネリスト含む)

第1部

1 神奈川県主催関東大震災100年事業

2 防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)について

3 ぼうさいこくたいを開催する神奈川の皆さんへ 過去の開催地から一言

愛知県名古屋市から

応援メッセージ 2023年 関東大震災 100年

防災文化共創“備レジ”

～災害への備え 知と技と情のひろば～

それぞれの立場の人が、担うべき役割を自覚し、
「ぼうさい」のワザを学び、互いの“縁”を深める場

会場で生まれる【防災文化共創マインド】
街にひろがり、国におよび、
やがては国境を越える防災文化へと

広島県三原市から

応援メッセージ 2023年 関東大震災 100年

防災は一人ですることと繋がらなければならないに分けた
ときに、このぼうさいこくたいの場が様々な人々、企業と出会い、
繋がりが、今後予測されています首都直下地震、南海トラフ巨大地震
や様々な災害に対して、このぼうさいこくたいが多くの方々に、
個人・団体などと繋がりが、連携することにより「予防、発災後の
活動」に於いて、その大切さを伝えていただくことを望んでいます。
そして、関東大震災から何を学び、何を教訓として訴え、伝えて
行くのか分かる大会になることを期待しています。

3

岩手県釜石市から

応援メッセージ 2023年 関東大震災 100年

○全国各地で災害が頻発しているなか、将来にわたり誰一人
として犠牲にならないまちづくりを進めることは、私たち
共通の願い。

○「自分の命を自分で守り生きぬく」という自分事
として防災に向き合い、継続して取り組むことが
重要。

○「ぼうさいこくたい」は、みんなで楽しく学べる工夫と仕
掛けがいっぱい、可能性と多様性にあふれたイベント。

○本大会が防災について考える機会となり、多くの皆様や地
域の防災意識・防災力の向上につながることを心から願って
います。



3

兵庫県神戸市から

新たなつながりが生まれました

6つの現地企画が生まれました

- ・震災27年、神戸のリアル ～地域の目線から～
- ・100年後の共感へ パズる災害伝承をさぐる
- ・全国学生防災シンポジウム in ぼうさいこくたい
- ・ぼうさいミライをさぐる
- ・災害時の避難対応を学ぼう(発災直後から避難所まで)
- ・Withユース



震災27年、神戸のリアル ～地域の目線から～



ステージで参加も！

第2部 グループワーク





アンケート結果概要(3/17時点 回答数123)



興味・関心のあるテーマ(複数回答)

地域防災	73
地震・火山	64
自助・共助	56
避難・避難所	45
風水害	42

以下、災害情報(37)、防災行政(34)、土砂災害(33)、教育(30)、
災害教訓・伝承(25)、ボランティア(21)、医療・福祉(20)、
都市・建築・住宅(19)、企業防災(17)、備蓄・グッズ(16)、
科学・技術(9)、ペット(8)、国際(7)、ゲーム(5)、
この中にはない(4)、災害廃棄物(3)

自由記述: 災害時の相談体制等の周知、テレビ・ラジオ放送との
連携、大学生同士の防災・復興交流、「防災」ボードゲーム体験、
防災食を活用したキッチンカー、関東大震災の体験、市町村防災
担当者のディスカッション、防災手話ダンス、介助運搬車の試乗
会、他県の子供たちとの防災交流、道案内ボランティア

出展経験

はい	18
いいえ	98
不明	7

出展検討状況

単独	64
共同	20
要検討	24
意思なし	15

単独出展検討団体のうち他団体の参画可否

はい	17
いいえ	10
要検討	28

検討してる出展形態(第1希望)

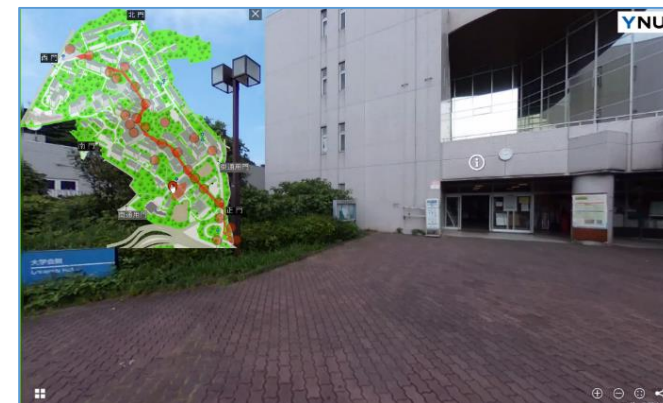
講演、パネル	19
ワークショップ	31
常駐ブース	36
ポスター	16
屋外展示	9
その他の企画	12



日時	令和5年4月7日（金）18時～20時30分		
開催方法	神奈川県災害対策本部室又はZoomによるオンラインの選択		
参加者	総数	84名	
	災害対策本部室	24名	
	Zoom	60名（パネリスト含む）	

第1部

1 横浜国立大学の施設案内



第2部 グループワーク





事前アンケート概要（1）

第1回現地情報共有・連携会議の感想

参加して非常に良かった	31
良かった	27
あまり良くなかった	7
参加の意義はなかった	1

ぼうさいこくたい2023のイメージ

よく分かった	19
少し分かってきた	34
まだよく分からない	12
まったく分からない	0

意見交換の感想

非常に有意義だった	24
まあやってよかった	29
あまり参考にならなかった	9
参加の意義はなかった	3

共同出展の可能性

かなり広がった	10
やや広がった	26
まだ拡がりがない	19
まったく展望がない	6

出展検討状況

団体単独での出展を準備、検討している	41
他団体と共同しての出展を準備、検討している	30
単独での出展は困難だが、これから他団体との共同出展の可能性を検討したい	10
自団体での出展検討はしていないが、他団体の支援などありえる	3
現時点で何らかの出展に関わるつもりはない	1



事前アンケート概要（2）

単独企画への他団体の参画可能性

どんな団体でも歓迎したい	3
自団体の企画意図に沿う団体との参画は歓迎したい	36
日常的に交流がない団体との連携は困難	5
現時点で他団体との連携などは想定していない	13

興味・関心のあるテーマ（複数回答）

地域防災	37
地震・火山	32
風水害	24
関東大震災100年	22
自助・共助	22

以下、土砂災害、災害情報、ボランティア、避難・避難所、・・・

自由記述（抜粋）：個別避難計画、災害弱者に対する避難行動、メディア、応急対策、避難所における良好な生活環境の確保、乳児栄養、アートやデザインとの接点、被災建物の調査、生活再建・復興、迅速な安否確認、地質、災害時の乳児の栄養、公助に期待しない水難救助

具体的な連携相手（公開可より抜粋）

大東文化大学公認防災サークルSTERA、公的機関、防災塾・だるま、神奈川県、神奈川県内の市町村、大学、地域防災団体（住民組織）、避難所運営に関係のある団体、災害ボランティアセンター運営に関連する団体、神奈川のミュージアム、神奈川地学会、ひらつか防災まちづくりの会、まちネット緑、未来防災NET、東京医療保健大学、神戸の手話ダンスサーイのっち、Goonats東京、防災ソング実行委員会、人と智ネット、かながわ広域連携図上訓練実行委員会、学生団体、サークル、母と子の育児支援ネットワーク、ラ・レーチェ・リーグ

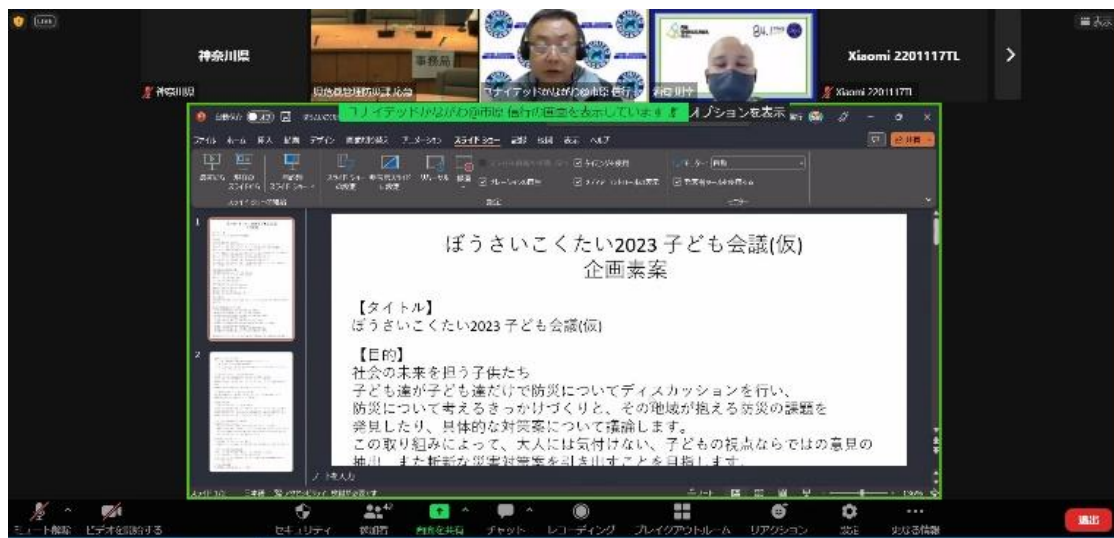
検討してる出展形態（第1希望）

セッション	9
ワークショップ	10
プレゼンテーション	19
ポスターセッション	9
屋外展示	14
オリジナルセッション	10
ポスター＋イグナイト	4



日時	令和5年4月27日（木）18時～20時30分		
開催方法	神奈川県災害対策本部室又はZoomによるオンラインの選択		
参加者	総数	60名	
	災害対策本部室	19名	
	Zoom	41名（パネリスト含む）	

共同出展応募予定者からの発表



1. 「ぼうさいこくたい2023 こどもかいぎ（仮称）」

発表者 ユナイテッド神奈川 市原様
イツコミュニケーションズ 酒匂様



2. 「防災手話ダンスから学ぶ防災 ～首都直下地震サバイバル」

発表者 Goonats東京 伊東様



ぼうさいこくたい2023

第3回現地情報共有・連携会議結果概要

2023年
関東大震災
100年記念行事等



3. 「防災と人権・多様性を考えよう」

発表者 神奈川県社会福祉士会 横山様



4. 「関東大震災から百年の教訓を踏まえた 自助・共助・業助・公助連携」

発表者 防災塾・だるま 鷲山様



5. 「「地震体験」と「防災の昔・今・これから」」

発表者 平塚市 野田様



6. 「学生主体の若者ネットワーク強化とキャリア支援」

発表者 よんなな防災会学生部 上田様
静岡大学学生防災ネットワーク 瀧川様



事前アンケート概要

出展検討状況

他団体と連携して出展応募する	21
団体単独で出展応募する	18
出展はしないが何らかの形でぼうさいこくたいに関わりたい	2
今回の連携会議を受けて、対応を検討する	8
その他	9

その他意見

- ・協力団体として出展予定
- ・他団体との連携出展を希望しているが、相手が見つからず など

検討してる出展形態（3つまで回答）

セッション	11
ワークショップ	13
プレゼンテーション	22
ポスターセッション	18
屋外展示	20
イグナイトステージ	1
オリジナルセッション	10
ポスター＋イグナイト	11

応募するキーワード（2つまで回答）

自助・共助	14
地域防災	13
避難・避難所	9
地震・火山	6
関東大震災	6
教育	6

以下

災害情報(4)、ボランティア(4)、災害教訓・伝承(4)、医療・福祉(4)、都市・建築・住宅(4)、風水害(3)、備蓄・グッズ(3)、ペット(3)、土砂災害(2)、防災行政(2)、インクルーシブ(2)、科学技術(1)、企業防災(1)、ゲーム(1)、災害廃棄物(0)、国際(0)、ジェンダー(0)

その他意見

被災建物の修復技術、標準化デザイン、乳幼児栄養、学生、災害時の食事/子ども

単独出展企画のうち他団体の参画可否

はい	18
いいえ	9



ぼうさいこくたい2023

第4回現地情報共有・連携会議結果概要



日時 令和5年8月21日（月）18時～20時
開催方法 神奈川県危機管理センター又はZoomによるオンラインの選択
参加者 総数 56名（災害対策本部室：20名 Zoom：36名）

【会議内容】

1 挨拶

- ・神奈川県 長澤くらし安全防災局企画調整担当課長
- ・内閣府 西澤参事官補佐（統括）

2 出展者からの企画内容共有

3 内閣府からのお知らせ

4 フリーコミュニケーション



企画内容発表団体（オンライン）

- ①BOW・WANボランティア様
- ②NPO法人かながわ311ネットワーク様
- ③NPO法人日本防災士会神奈川県支部様
- ④ご近所 de BOSAI様
- ⑤一般社団法人LFA Japan様
- ⑥横浜地方気象台様
- ⑦公益社団法人SL災害ボランティアネットワークかながわ様
- ⑧神奈川県大規模災害対策士業連絡協議会様
- ⑨特定非営利活動法人ユナイテッドかながわ様
- ⑩日本体育大学保健医療学部救急医療学科様

企画内容発表団体（オンライン）

- ⑪平塚市様
- ⑫人と防災未来センター様

企画内容発表団体（現地）

- ⑬ユーティリティ・ソリューションズ様
- ⑭横浜市神奈川区役所様
- ⑮防波システム研究所様
- ⑯復興ボランティアタスクフォース様
- ⑰オリジナルセッション神奈川Os 7 実行委員会様
- ⑱TEAM防災ジャパン様

事前アンケート結果



アンケート概要

①会議参加の感想

とても良かった	6
良かった	13
どちらともいえない	1
良くなかった	0

②-1出展への有用性

とても有用だった	4
有用であった	12
どちらともいえない	4
有用ではなかった	0

②-2有用だった点(主なものの抜粋)

- ・出展団体の確認や出展内容を共有することができた。
- ・不明な点がその場で確認することができた。
- ・現地視察できたことでイメージの共有が図れた。
- ・様々な団体の方と交流ができ、様々な視点からの展示・講演・セッション等に触れることができたこと。
- ・出展時に他の団体と協力しながら準備が出来、今後に向けてもいい関係性を構築できた。
- ・連携会議により他団体との連携をすることができ、当日の集客にもつながった。
- ・会議内で出展内容を発表することができ、自信につながった。
- ・普段、出会うことがない団体と意見交換することができ、非常にいい機会であった。

②-3改善点(主なものの抜粋)

- ・出展に際して事務局からの説明不足により、出展者間でトラブルがあり、大変困惑した。
- ・行政や学術系の出展が少ないことが残念であった。
- ・1つのテントを複数の団体で共有したことから、出展面積が少ないように感じた。
- ・開催回数が少なく、参加団体も少なかった。
- ・会議の時間が遅い。
- ・会議の場で自己紹介の時間がなかったため、他の団体と意見交換をすることができなかった。
- ・現地説明の際、予定時間に担当者が現れなかった。
- ・展示会場が広いことから、パンフレットが機能していなかった。



アンケート概要

③-1 他団体との連携や繋がり

深まった	11
どちらともいえない	8
深まらなかった	1

④ぼうさいこくたいへの寄与

とてもそう思う	3
そう思う	9
どちらかというと思う	1
どちらともいえない	7
そう思わない	0

③-2 事例(主なもの抜粋)

- ・コラボ出展は、占有面積は少なくなるが、お互いに他の団体と協力し実施出来たことは良かった。
- ・お互いに必要資機材がない場合は有通し協力しあうなど繋がりができた。
- ・出展することで周辺地域での様子を把握することができ、意見交換することで、今後の課題を検討することができた。
- ・相互に会場を訪問し、互いの取組みをより深く知ることが出来た。
- ・今後一緒に活動などをしていく方と出会いました。
- ・神奈川オリジナルセッションを開催することができた。
- ・神奈川県内の関係者が多く、ゆっくり情報交換ができた。
- ・連携会議のグループ毎の話し合いにより、活動や課題の共有だけでなく、実際にスタンプラリーを実現することができた。
- ・多くの団体、メディアなどから賛同を得て、出展団体同士の連携は深まりました。
- ・実体のない出展者や実行力に欠ける団体の採択は、連携団体への負担となった。



アンケート概要

⑤-1 情報共有や連携

大変重要	7
重要	11
どちらともいえない	2
あまり重要ではない	0
重要ではない	0

⑤-2 具体的な提案等(主なもの抜粋)

- ・この「ぼうさいこくた」で終わりではなく、このようなイベントを継続して行く事が重要。
- ・官民一体となった住民主体の防災・減災を図る体験型防災訓練を実施して欲しい。
- ・国民の生命、財産を災害から守るために、官民一体となった積極的な情報共有が重要。
- ・イベント等の開催を活動団体に知らせるなどのツールがあればよい。
- ・官が出来ない事、民でも出来る事を整理し、各分野で得意とする団体と「地域防災協定」のようなネットワーク作りが重要。
- ・子ども目線の防災を多く取り入れて欲しい。
- ・大災害時に備えた、情報共有会議メンバーの構築、顔の見える緩やかなつながりを構築することが必要。
- ・有事の時、患者、医療従事者の移動や避難をコントロールする体制を構築して欲しい。
- ・大規模な防災最先端訓練施設や供給基地を首都圏にある都道府県が連携し広域連合として創るべき。
- ・大地震時の対応行動について、地域毎にどの様に行動し、命を守る事ができるのか具体的に個人個人に知らせてほしい。
- ・分野やテーマごとに団体同士が知り合っておくことは、災害発生時にはとても役に立つことだと思うので、特に大学同士の情報交換や、企業の取り組みを行政が間に入って取りまとめたり情報発信をしてもらえると良い。
- ・ぼうさいこくたいほどの規模ではなくても、ボランティア団体やNPO、大学、企業がそれぞれの活動を紹介する場があってもよいと思う。



アンケート概要

⑥今後、国、県、市町村、防災関係機関、団体等に期待すること(主なもの抜粋)

- ・「県民防災連絡会」のような知識や情報を共有する会議を設置し、定期的に大会を開催すれば良い。
- ・官民が一体となった防災訓練を実施して欲しい。
- ・ぼうさいこくたいのなか日に、出展団体が集まる場が用意されたのは良かったが、関東大震災100年という年、100年後にも残す大会のレガシーを話し合う場がなかったのは残念。
- ・出展団体でグループに分かれて、未来へと引き継ぐのはどんなことにするのか考える機会を作ってほしい。
- ・ぼうさいこくたいでは、防災用品を買ったり、防災食を試食したりできないことから、初日は防災関係者の来場日、二日目は一般開放日などとして、情報交換できる日と、一般客に対して啓発に専念できる日を分けてみるのはいかがか。
- ・関東大震災100年の教訓を生かして、同時多発火災を発生させないための施作を徹底して迅速に行うべき。
- ・義務教育に自然災害から命を守るための自助・近助・共助の重要性や地域で活動するフィールドワークを入れるべき。
- ・県、市町村が情報発信をする事が必要。
- ・県主催の災害情報共有・連携会議の開催を年1回は定例化することを望む。
- ・行政が主体となった情報共有の場や情報発信が必要。
- ・人材育成の観点から若い方々の出展の場を増やす事が必要である。
- ・災害対応の復興復旧や県の災害時の緊急対応などについて、建築士(設計・施工者)との連携、体制構築のため、協議をお願いしたい。
- ・神奈川県内在住の方々や組織内の「産官学」や「地元民間団体・自治体」等の発掘を国や県が共同し、早急にキーマン発掘展開をすることが大切。